

平成28年度

事業報告書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

<本編>

I. 法人の概要	1
II. 事業の概要	7
1. 学園全体	7
2. 森ノ宮医療大学	9
3. 森ノ宮医療学園専門学校	24
4. 森ノ宮医療学園附属診療所	30
5. 森ノ宮医療学園出版部	37
III. 財務の概要	42

学校法人森ノ宮医療学園

大阪市東成区中本4丁目1番8号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成した。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

昭和48年(1973)	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校
昭和52年(1977)	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年(1982)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年(1985)	4月	卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
昭和63年(1988)	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年(1991)	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
平成4年(1992)	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年(1995)	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与
平成8年(1996)	6月	中国江蘇省陰市中医院と交流開始
平成12年(2000)	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001)	1月	本校舎増改築工事完成
		はりきゅうミュージアム開設
平成14年(2002)	1月	はりきゅうミュージアムにて代田文誌特別展開催
	4月	緑橋校舎増設
平成15年(2003)	3月	柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎(第1期)完成
平成16年(2004)	3月	中国江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結
平成17年(2005)	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年(2007)	4月	森ノ宮医療大学開学
平成20年(2008)	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成21年(2009)	4月	森ノ宮医療大学 AMRI 医療センター(アムリクリニック、アムリ鍼灸院)開院
平成22年(2010)	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと包括連携協定締結
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェオープン
平成23年(2011)	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟(ウエストポート)竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
平成24年(2012)	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
平成25年(2013)	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別

認証評価受審の結果、「適合」との判定

森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定

平成26年(2014)	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結
平成26年(2014)	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結
平成26年(2014)	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結
平成27年(2015)	2月	相愛大学と包括連携協定締結
平成28年(2016)	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設 保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科を開設
平成28年(2016)	5月	森ノ宮医療大学 新棟(チャンネルポート)竣工、新体育館、新図書館併設
	6月	森ノ宮医療大学講堂(コスモホール)竣工
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン(FCIM)と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行
	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地(大学設置基準上の空地)購入

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区中本4丁目1番8号	
学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	
設置する学校 森ノ宮医療大学	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課程)	2	6	0	12	開設年度 平成23年	
	保健医療学部鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年	
	保健医療学部理学療法学科	4	60	0	240		
	保健医療学部看護学科	4	80	0	320	開設年度 平成23年	
	保健医療学部臨床検査学科	4	60	0	240	開設年度 平成28年	
	保健医療学部作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年	
	助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年	
	森ノ宮医療学園専門学校	医療専門課程 鍼灸学科	3	180	0	540	開設年度 昭和48年
医療専門課程 柔道整復学科		3	180	0	540	開設年度 平成12年	

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	m ² 32,936.65	m ² 7,193.15 (東棟)	平成28年度に南棟 (11,499.80 m ²) 完成、 隣接地 (16,941.41 m ²) 購入
		603.63 (食堂棟)	
		4,523.74 (西棟)	
		11,102.79 (南棟)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	23,423.31	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,353.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中 本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校 舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,744.60	
(大学+専門学校) 合計	36,176.83	31,167.91	

5. 役員の概要

(平成 28 年 4 月 1 日現在)
定員数：理事 8～12 名、監事 2 名

役員	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成 22 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	荻原俊男	平成 23 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	安田実	平成 11 年 5 月	7-1-3	
理事	三木完二	平成 9 年 5 月	7-1-2	
理事	花谷幸比古	平成 9 年 5 月	7-1-2	
理事	中田敬吾	平成 14 年 5 月	7-1-3	
理事	尾崎朋文	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	森優也	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	小島賢久	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	吉川徹	平成 25 年 7 月	7-1-3	
理事	金尾顕郎	平成 27 年 4 月	7-1-3	
理事	青木元邦	平成 27 年 4 月	7-1-3	
監事	日根野文三	平成 11 年 5 月		
監事	小林由幸	平成 14 年 10 月		

6. 評議員の概要

(平成 28 年 4 月 1 日現在)
定員数 17～25 名

役員	氏名	寄附行為上の選任区分
評議員	田畑京美	25-1-1
評議員	金尾顕郎	25-1-1
評議員	山下 仁	25-1-1
評議員	村上生美	25-1-1
評議員	鍋田智之	25-1-1
評議員	青木元邦	25-1-1
評議員	宮崎義雄	25-1-1
評議員	吉岡敏治	25-1-1
評議員	花谷幸比古	25-1-2
評議員	三木完二	25-1-2
評議員	房前素徳	25-1-2

評議員	浜田 暁	25-1-2
評議員	清水尚道	25-1-2
評議員	尾崎朋文	25-1-2
評議員	奥田 功	25-1-3
評議員	河内 明	25-1-3
評議員	鈴木 紘	25-1-3
評議員	尾本禎男	25-1-3
評議員	下條喜信	25-1-3
評議員	築山房乃	25-1-3
評議員	房前素徳	25-1-3
評議員	森 優也	25-1-3
評議員	小島賢久	25-1-3
評議員	葉山直史	25-1-3

7. 教職員の概要

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

●専門学校・診療所

区分	
本務教員	26
本務職員	24
診療所本務職員	19
合計	69

●大学

区分	
本務教員	104
本務職員	37
合計	141

8. その他

●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	公益社団法人 私学経営研究会	法	法人本部	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	法人本部	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務室	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務室	
7	日本私立大学協会	大	総務室	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務室	
9	西日本私立大学振興協議会	大	経営企画室	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務室	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務室	
12	一般財団法人 全国私立大学教職課程協会	大	教務室	
13	阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会	大	教務室	
14	広域大学連携事業	大	教務室	
15	関西地区 FD 連絡協議会	大	経営企画室	
16	関西学生就職指導研究会	大	学生支援室	
17	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	
18	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	
19	公益社団法人 全日本鍼灸学会	共/大図	鍼灸学科	
20	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	理学療法 作業療法 関係
21	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
22	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	看護関係
23	一般社団法人 日本私立看護系大学協会	大	看護学科	
24	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	
25	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科	

			助産学専攻科	
26	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
27	一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会	大	臨床検査学科	臨床検査 関係
28	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専	柔道整復学科	柔道整復 関係
29	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専/大関	柔道整復学科	
30	私立大学図書館協会	大	図書館	図書館 関係
31	日本看護図書館協会	大	図書館	
32	一般社団法人 日本温泉気候物理学医学会	大	図書館	
33	経絡治療学会	大	図書館	
34	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	広報関係 地域関連
35	東成防火協力会	専	事務局	
36	中本連合中本第一町会	専	事務局	
37	コスモスクエア地区開発協議会	大	経営企画室	
38	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
39	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
40	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	

II. 事業の概要

1. 学園全体

平成 28 年度の主な事業の遂行状況は、以下の通りである。

1. 森ノ宮医療大学（以下、大学と表記）における平成 28 年 4 月 1 日に新学科（臨床検査学科・作業療法学科の 2 学科）および助産学専攻科を開設し、それぞれ入学定員を充足する入学生を迎え入れた。
2. 上記大学の新学科開設に伴う新校舎として、南校地に約 11,500 m²の新棟校舎（新図書館含む）と新体育館が平成 28 年 4 月末日に竣工した。
3. 新校舎完成を機に、既存の大学校舎についても、新たな名称を募集し、既存東棟はイーストポート（E 棟）、西棟はウェストポート（W 棟）に改名し、新棟についてはコスモポート（C 棟）と命名した。なお、E 棟は理学療法学科と鍼灸学科が主に使用し、事務機能や売店も併設している中心的な役割を持っており、W 棟は看護学科とはり・きゅうコスモス治療院が使用している。新棟である C 棟は、臨床検査学科及び作業療法学科が使用するとともに、880 m²のスペースを確保した図書館（メディカル・アイ）や 1,323 m²の体育館（MTC：メディカルトレーニングセンター）を併設している。
4. 大学新体育館の空調設備については、体育館の使用状況から、7 月に空調設備の追加工事を行った。また、C 棟周辺の外構工事も合わせて実施した。
5. 大学の新体育館の建設により、E 棟にあった旧体育館を講演やコンサートが実施できるホールに改装することとし、400 名（着席）が収容できるホールが 10 月末に完成した。また、このホール名については公募の結果「コスモホール」と命名された。
6. 森ノ宮医療大学開学 10 年記念事業の一環として記念誌の発刊を行うとともに、平成 28 年 11 月 26 日に大学開設 10 年記念式典を挙行了。式典については、午前の第 1 部、午後の第 2 部に分けた 2 部制で進行し、第 1 部は第 1 回森ノ宮医療大学学術大会を開催し、メインテーマを「チーム医療」とした。第 2 部については、来賓挨拶をはじめ、10 周年記念講演などの内容で記念式典を開催し、約 400 名の参加者があった。
7. 大学においては、第 1 期中期計画の中で、2,000 人規模の収容定員を持つ医療系総合大学とすることを目標と掲げているが、平成 28 年 4 月 1 日時点の校地面積では、将来において不足をきたすことが想定されるため、新たな土地取得について候補地の調査を継続してきた。平成 28 年 4 月 8 日に株式会社大阪港トランスポートシステム（以下、OTS と表記）から、咲洲の大学校地西側に隣接する北側の土地（7,650.39 m²）及び南側の土地（9,291.02 m²）の譲渡提案があり、検討を重ねた結果、両方の土地（16,941.41 m²）を平成 28 年 12 月 20 日に OTS から取得した。
8. 平成 29 年 3 月に大学教育後援会からの寄付を活用して、大学 E 棟にある中庭をミニコンサート等が開催できるステージを有した憩いの場へと変更する改装を行った。
9. 大学では、臨床検査学科・作業療法学科の 2 学科ならびに助産学専攻科の開設以降の計画である大学院博士後期課程新設の申請作業や臨床工学科の開設の届けを行った。いずれも、平成 30 年度開設を予定している。さらに、看護学科に第 1 種養護教諭免許取得のコース設置の届け出を行い、平成 29 年度入学生から適用される大学学則変更を行った。
10. 大学において、Morinomiya English Education Program(略称 MEEP)の最終プログラムとして、平成 29 年 3 月にカナダ・アルバータ州のマキュワン大学において 13 日間の海外研修を実施した。
11. 森ノ宮医療大学大学院（以下、大学院と表記）博士後期課程において、大学の新学科開設に伴い基礎となる学科連携を踏まえ、修士課程のカリキュラムを見直し、学則の教育課程を変更した。

12. 森ノ宮医療学園専門学校（以下、専門学校と表記）活性化策として、専門学校独自の新たな学費等に係る優遇制度の整備に着手した。具体的には、在校生・卒業生に対して、入学金の免除に加え、各学年次に一定額の学費を減免する。医療系のWライセンス取得希望者に対して、各学年次に一定額の学費を減免する。学士等を有する入学生に対して、1年次に一定額の学費を減免する制度を設けることとした。さらに、全入学生に対して、教科書及び被服（白衣や柔道着等）の無償提供制度についても整備した。なお、これらの制度については、平成29年度入学生から適用することになった。
13. 専門学校では、経年劣化による本校舎の空調機器について、5カ年計画により空調機の入替工事を予定している。平成28年度は第1期として本校舎1階の一部と2階の全空調機の入替更新工事とソーラーパネルを本校舎屋根に設置する工事を5月行った。なお、これらの工事については、文部科学省が推進している「エコキャンパス推進事業」に応募し採択され、この工事に係る経費についての補助金が交付された。
14. 平成30年度から施行となる「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に係る学校養成施設認定規則」ならびに「柔道整復師学校養成施設指定規則」の一部改正と養成施設指導要領（ガイドライン）の一部改正が予定されていることに注視し、平成30年度入学生からの大学および専門学校鍼灸学科ならびに専門学校柔道整復学科の教育課程（カリキュラム）について検討を行った。
15. 上記、認定規則及び指定規則の改正に伴い、臨床実習単位が増加すること、学外での臨床実習が可能となったことから、専門学校においても鍼灸学科及び柔道整復学科の学生が実習できる外部治療院の選定が必要となった。さらに、柔道整復学科が使用できる新たな外部臨床実習施設として、外傷患者をターゲットとした接骨院の開設を検討し、平成29年度中の開院を目指すことになった。
16. 専門学校において、大阪社会体育専門学校（以下、社体と表記）との連携協定締結を踏まえ、相互の学校に通学するいわゆるダブルスクールが可能な「AT特修コース」を設定した。なお、大阪社会体育専門学校でも同様の仕組みである「医療特修コースとして」を設定している。募集活動については、専門学校と社体間で協力体制を構築し募集活動を行った結果、若干名ではあるが、両校とも各コースの入学生を獲得した。
17. 専門学校では、米国フロリダにある鍼灸学科を設置する Florida College of Integrative Medicine (FCIM) と姉妹校の提携を行い、9月13日にFCIMにて調印式が執り行われた。
18. 学園附属診療所のみどりの風クリニックにおいては、平成28年8月に内科医の交代があり、新たな施策として禁煙外来を開設した。
19. 実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関として「専門職大学」（仮称）を制度化する動きがある中、現在の専門学校を転換させるかどうかについて、プロジェクトチームを立ち上げ検討した。平成29年度中に詳細な設置基準等が出てくることから、継続検討をしている。
20. 学園の新たな事業として、外国人人材育成事業に取り組むことを決定した。概略としては、外国人を対象とした日本語学校について、平成31年4月1日開校を目指す。さらに、この日本語学校卒業生及び他の日本語学校卒業生した外国人や邦人も対象とした介護福祉士養成学校を専門学校に併設した形で、平成33年4月設置を目指す。

2. 森ノ宮医療学園大学

(1) 実施事業の概要

【平成 28 年度目標】

医療系総合大学としての拡充・認知度向上・ブランディング強化の継続により、関西圏の医療職養成大学群内でのプレゼンスを高める。

1) 医療系総合大学へ向けた取り組み

① 新学科開設・新校舎稼働

既存の看護学科・理学療法学科・鍼灸学科に加え、平成 28 年度より作業療法学科・臨床検査学科・助産学専攻科を新たに開設。医療系総合大学としての拡大路線を継続し、認知度向上・ブランディング強化に取り組んだ。新学科の募集状況は概ね順調であり、臨床検査学科 72 名（定員 60 名）、作業療法学科 50 名（定員 40 名）が確保された。さらに平成 29 年度募集状況も平成 28 年度を上回っており堅調であった。

新学科開設に伴い、平成 28 年度より新校舎が稼働した。新学科学生に対する良質な教育環境の提供、既存学科・新学科教員の研究設備の充実、既存学科学生を含めた自習スペースの拡充等、スケールメリットを生かした大学力向上が達成できた。さらに、新体育館（MTC：メディカルトレーニングセンター）、新図書館（メディカル・アイ）の稼働は学生のキャンパスライフの充実、主体的学修態度の醸成に大きく寄与している。また新体育館により合同就職説明会・健康診断等が潤滑に実施できるようになり、また旧体育館はコスモホールとして多目的に活用可能となった。

② 「チーム医療教育を実践する医療系総合大学」としてのブランディング

平成 27 年度より本学の医療教育の主軸を「東西医療の融合」から「チーム医療実践力」へと変革させており、平成 28 年度も継続して「医療系総合大学だからこそ実践できるチーム医療教育」を前面に打ち出し、大学ブランディングの向上を図った。様々な医療現場のニーズ及び社会的ニーズにマッチした「チーム医療」のコンセプト、及びそれを可能にする「医療系総合大学」の打ち出しは、本学の優れた広報手法により定着しつつあり、平成 27 年度同様、医療職を目指す受験者層に大きなインパクトを与えている。「チーム医療」を本学の魅力・志望動機としている受験生が最多であり、「チーム医療を実践する医療系総合大学」として森ノ宮医療大学の認知度は引き続き向上したと考えられ、これは継続する募集力アップに反映された。

- ・ 年間資料請求者数：23,002 件（H27 年度比：114.1% 20,153 件）
- ・ 年間 WEB サイト訪問者数：385,117 件（H27 年度比：116.8% 329,755 件）
- ・ オープンキャンパス参加者数：4,829 名（H27 年度比：118.1% 4,090 名）
- ・ 出願者数：3,298 名（H27 年度比：110.7% 2,978 名）

これに伴い偏差値の上昇も継続して認められ、主要受験者層の上方シフト・国公立や上位競合校との併願の増加が確認され、確実に認知度・ブランド力は向上していると考えられる。一方で理学療法学科、鍼灸学科の募集に起因する結果と思われる。はやや停滞した。高校生全体としての理学療法士希望者の減少があり、本学の国家試験結果、また鍼灸学科ではチーム医療が魅力に映らない背景がある。国家試験合格率の向上や、鍼灸学科独自の打ち出しを検討する課題が残されている。

さらに医療系総合大学として発展を継続すべく、平成 30 年度の臨床工学学科と大学院後期博士課程設置に向けた準備を進めた。また、平成 32 年度を目安とし、さらなる新学科設置構想にも着手した。

③ 森ノ宮医療大学 10 周年企画

平成 28 年度に森ノ宮医療大学 10 周年を迎え、28 年度に完成したコスモホール（旧体育館）にて記念講演会・記念学術集会を開催した。また本学園の全面協力により、幻冬舎から「知られざる医療スペシャリストの世界」（森ノ宮医療学園編）が出版された。

④ 専門職間連携教育 IPE（Interprofessional Education）の実施

IPW（Inter Professional Work）（専門職連携）は複数の専門職が協働し、患者の疾病治療や様々な要望に応える現代医療のコアとなる形態であり、いわゆる「チーム医療」として展開されている。「チーム医療教育」を打ち出している本学は、チーム医療を理解し牽引する人材の輩出を目指し、専門職間連携教育 IPE（Interprofessional Education）を平成 28 年度から既存学科（看護・理学療法・鍼灸各学科）3 年生を対象にスタートした。本カリキュラムでは、設定した症例ごとに各学科学生がチームを構成し、各専門職の知識・スキルを最大限に生かしつつ協働するチームとして、患者へのアプローチ構築を実践させた。医師及び各専門職教員の指導のもと、カンファレンス形態で実施し、病院で実際に行われる症例検討会を模擬的に体験させた。本形態授業は、医療人育成プログラムとして全国的にも稀なカリキュラムであり、医療系総合大学の最大のアドバンテージである。今後、新学科の合流に向け、IPE 手法のさらなるブラッシュアップを行う。

2) 学生支援

① 質の高い教育水準の確保

学生授業アンケート・公開授業・ループリックによる評価の可視化等を継続して実施することで、教員の学生教育に対する意識の維持・向上を目指した。学生に理解しやすい教育プログラム提供に重点を置き、主体的学修姿勢の醸造に取り組んだ。また本学は、実習病院として、相互連携協定を締結している大阪府立急性期総合医療センター、北野病院、医療法人協和会等をはじめ、地域の基幹病院を連携先病院として豊富に有しており、高度な臨地実習を展開することができた。新学科においても地域の主要基幹病院を実習施設として確保している。

さらに、既存 3 学科及び助産学専攻科においては、昨年を引き続き、各学科特性に応じ緻密にプログラム化された国家試験対策を構築・実施した。ブラッシュアップされたシステマティックな国家試験対策の提供と同時に、チューター制度・担任制度による個別指導を導入することで、高い国家試験合格率を達成した。

■看護師

全体 受験者数：62,534 名 合格者数：55,367 名 合格率：88.5%

新卒 受験者数：56,381 名 合格者数：53,177 名 合格率：94.3%（大学平均 96.5%）

本学新卒 受験者数：87 名 合格者数：84 名 合格率：96.6%

（3 期生） 受験者数：72 名 合格者数：72 名 合格率：100%

■保健師

全体 受験者数：8,207 名 合格者数：7,450 名 合格率：90.8%

新卒 受験者数：7,590 名 合格者数：7,172 名 合格率：94.5%

本学新卒 受験者数：9 名 合格者数：9 名 合格率：100%

国家試験合格率 3 年連続 100%

■助産師

全体	受験者数：2,053名	合格者数：1,909名	合格率：93.0%
新卒	受験者数：2,044名	合格者数：1,904名	合格率：93.2%
本学新卒	受験者数：9名	合格者数：9名	合格率：100%

■理学療法士

全体	受験者数：13,719名	合格者数：12,388名	合格率：90.3%
新卒	受験者数：10,721名	合格者数：10,319名	合格率：96.3%
本学新卒	受験者数：45名	合格者数：45名	合格率：100%

■はり師

全体	受験者数：4,528名	合格者数：3,032名	合格率：67.0%
新卒	受験者数：3,260名	合格者数：2,743名	合格率：84.1%
本学新卒	受験者数 52名	合格者数：45名	合格率：86.5%

■きゅう師

全体	受験者数：4,444名	合格者数：3,010名	合格率：67.7%
新卒	受験者数：3,260名	合格者数：2,739名	合格率：84.0%
本学新卒	受験者数 52名	合格者数：46名	合格率：88.5%

国家試験合格率（大学） 関西圏1位

国家試験合格者数（大学） 全国2位（西日本1位）

本学が提供する教育水準の質の向上により、学生満足度・在校生本学推奨度が昨年に引き続き上昇した。しかし、留年による満足度棄損が一部にあり、留年率・退学率の抑制、すなわち4年卒業率の向上を達成しながら高い国家試験合格率を維持することが今後の課題となっている（本学目標：4年卒業率95%、国家試験合格率100%）。

また新学科においても、1年生に対して補講・個別対応・学内模擬試験の実施等により、ドロップアウトの抑制・学習習慣の醸成・国家試験に向けた意識付けに重点を置いた教育が実践できた。

② 学習支援センター

学習支援センターによる低学年教育の充実及び国家試験対策を継続した。リメディアル教育・一般常識教育・基礎医学教育・国家試験対策支援の連続性を重視し、低学年からの学習支援に取り組んだ。低学年におけるリメディアル教育・医療専門職の基盤となる基礎医学教育（解剖・生理学）に関し、学科特性に呼応した補講体制を、学習支援センターを核として学科・共通教育部門が緊密に連携しながら構築した。

ステップアップ講座：

- ・ 基礎からわかる物理学（講師：理学療法学科 角田） 全3回 （参加者数：40～46名）
- ・ 看護学生のための化学と生物（講師：看護学科 木田） 全5回 （参加者数：25～27名）
- ・ 作業療法士のための物理学（講師：作業療法学科 松下） 全9回 （参加者数：17～23名）
- ・ PT/OTのための基礎知識（講師：共通教育 森谷） 全6回 （参加者数：30～40名）
- ・ PTのための解剖学セミナー（講師：理学療法学科 工藤） 全8回 （参加者数：55～62名）
- ・ なるほど！The解剖生理（講師：看護学科 木田） 全5回 （参加者数：80名）

また鍼灸学科国家試験対策支援としてセンターアシスタント制度を継続して実施し、学生の満足度に寄与した。理学療法学科および看護学科では、学科と連携し、東京アカデミー等からの講師派遣による支援を実施した。

③ 健康管理センター

増加する学生に効率的に対応すべく、平成 28 年度から健康管理センターを新設し、学生の健康増進と健康管理業務を一元化した。

- ・ 臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化。
- ・ 感染症予防対策に関する全学ルールの統一（日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B 型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール）
- ・ カウンセリング業務によるメンタルヘルスケア
- ・ 休学者支援
- ・ みどりの風クリニックとの連携フロー策定
- ・ 平成 29 年 4 月の禁煙宣言に向けた取り組み遂行（敷地内及び近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導と禁煙サポート・平成 30 年度からは入学生に誓約書義務付け）

④ 就職ガイダンスの強化

学生支援室による就職説明会の実施、チューター制度・担任制度による個々の学生へのきめ細やかな就職支援により、高い就職率を達成した。平成 28 年度卒業生の進路希望者に対する進路決定率は 100%、第一志望施設への就職率は 83%と高い水準であった。

- ・ 看護学科：大学病院、国公立病院、大規模病院を中心に就職実績を残した。
- ・ 理学療法学科：公的病院、大手病院に就職。大学病院 3 名、国公立病院 3 名、大規模病院（400 床以上）13 名、リハビリテーション充実病院・施設 7 名、実習貢献度の高い施設 4 名。
- ・ 鍼灸学科：OB/OG の勤務先を主に就職。その他、大阪府教員採用 1 名、講師採用 3 名、一部上場企業採用（アシックスジャパン、パナソニックエイジフリー等）。

⑤ 卒後教育センター

大学ブランド力構築のためには、卒前教育の充実に留まらず、卒後教育を見直す必要があり、大学として継続教育支援プログラムを展開する卒後教育センターを、平成 27 年度から設置している。平成 28 年度は下記事業を実施した。

- ・ 10 周年記念学術大会：チーム医療について特別講演・シンポジウム
- ・ 基礎医学講座：徳島大学での解剖標本見学実習を開催した。参加者 16 名
- ・ RUSI workshop：30 名の参加者（全 6 回コース）
- ・ 森ノ宮適塾研修会

3) 研究機関としての体制整備と研究活動の充実

① ガイドライン改定に対応した適切な研究活動体制の実施

「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改定に基づき新たに構築した研究活動体制を平成 28 年度から実施した。研究倫理教育として、コンプライアンス研修会・CITI Japan e-learning 受講を全研究者対象として実施し、研究機関として不正防止に取り組んだ。また、適切な研究費配分・執行支援・外部資金獲得支援により、本学研究活動を推進した。

② 文部科学省 科学研究費助成事業における競争的研究資金獲得状況

<新規>

- 基盤研究 (C) 吉田 えり「看護師のストレス反応を低減させる職場環境改善プログラムの確立」
- 基盤研究 (C) 緒方 昭子「腹腔鏡下手術後患者に対するソフトマッサージ効果の比較ランダム化試験」
- 若手研究 (B) 木内 隆裕「上肢筋力の Cross-education に関わる神経基盤の解明」
- 挑戦的萌芽研究 宮本 忠吉「高位中枢の予測見込み的制御が激運動時の呼吸循環動態及び神経内分泌機能に及ぼす影響」

<継続>

- 基盤研究 (B) 宮本 忠吉「システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病態生理機構の解明」
- 基盤研究 (C) 前田 薫「立位位置が上肢運動時の予測的姿勢制御および注意・予測に関わる脳電位におよぼす影響」
- 基盤研究 (C) 増山 祥子「代替医療系研究論文の利益相反と結論に関するシステマティック・レビュー」
- 基盤研究 (C) 青木 元邦「軟骨局所 RA 系の役割と意義：高血圧と軟骨変性疾患の関連分子メカニズム」
- 基盤研究 (C) 中原 英博「呼吸循環代謝システムの長期トレーニング適応における順序発現機構の解明」
- 基盤研究 (C) 酒井 ひろ子「能動喫煙・受動喫煙の累積喫煙量をもたらす卵巣予備能低下と生活習慣病リスクの評価」
- 基盤研究 (C) 吉村 弥須子「生体肝移植ドナーの妊娠・出産の体験と医療支援に関する研究」
- 若手研究 (B) 上田 真也「13C 安定同位体比分析を用いた高強度運動時の骨格筋糖脂質代謝動態の定量解析」
- 若手研究 (B) 上田 佳世「院内助産における医療の質指標の実用化に向けた研究」
- 若手研究 (B) 工藤 慎太郎「扁平足の三次元足部挙動に基づく足底挿板の開発」
- 挑戦的萌芽研究 古谷 ミチヨ「性同一性障害当事者の性別移行を促進する生活支援プログラムの開発」

③ 研究成果の発信

積極的な研究活動が行われ、下記査読付き学術論文が発信された。

- Higaki J, Komuro I, Shiki K, Lee G, Taniguchi A, Ikeda H, Kuroki D, Nishimura S, Ogihara T. Effect of hydrochlorothiazide in addition to telmisartan/amlodipine combination for treating hypertensive patients uncontrolled with telmisartan/amlodipine: a randomized, double-blind study. *Hypertension Research* 2017, 40:251-258.
- Yano Y, Rakugi H, Bakris GL, Lloyd-Jones DM, Oparil S, Saruta T, Shimada K, Matsuoka H, Imai Y, Ogihara T. On-treatment blood pressure and cardiovascular outcomes on older adults with isolated systolic hypertension. *Hypertension* 2017, 69:196-202.
- Umemoto S, Ogihara T, Matsuzaki M, Rakugi H, Ohashi Y, Saruta T, and the Combination Therapy of Hypertension Cardiovascular Events(COPE) Trial Group. Effects of calcium channel blocker benidipine-based combination therapy on target blood pressure control and cardiovascular outcome: a sub-analysis of the COPE trial. *Hypertension Research* 2017, 40:376-384.

- Higaki J, Komuro I, Shiki K, Ugaki H, Taniguchi A, Ikeda H, Kuroki D, Nishimura S, Ogihara T. The efficacy and long-term safety of a triple combination of 80mg telmisartan, 5mg amlodipine and 12.5mg hydrochlorothiazide in Japanese patients with essential hypertension: a randomized, double-blind study with open-label extension. *Hypertension Research* 2017 40:51-60.
- Kashiwagi A, Yoshida S, Kawamuki K, Nakamura I, Kazuta K, Ueyama E, Takahashi H, Akiyama N, Kondo Y, Ogihara T. Effects of ipragliflozin, a selective sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor, on blood pressure in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a pooled analysis of six randomized, placebo-controlled clinical trials. *Diabetology International* 2017, 8:76-86.
- Umemoto S, Ogihara T, Matsuzaki M, Rakugi H, Ohashi Y, Saruta T, the Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Event(COPE) Trial Group. Effects of calcium channel blocker-based combinations on intra-individual blood pressure variability: post hoc analysis of the COPE trial. *Hypertension Research* 2016, 39:45-53.
- Yoshimura Y, Umeshita K, Kubo S, Yoshikawa Y. Anxieties and coping methods of liver transplant recipients regarding pregnancy and delivery. *Journal of Advanced Nursing* 2016, 72(8): 1875-1885.
- Mori S, Hatori N, Kawaguchi N, Hamada Y, Shih TC, Wu CY, Lam KS, Matsuura N, Yamamoto H, Takada YK, Takada Y. The integrin-binding defective FGF2 mutants potently suppress FGF2 signaling and angiogenesis. *Biosci Rep.* 2017 (in press)
- Uchinaka A, Tasaka K, Mizuno Y, Maeno Y, Ban T, Mori S, Hamada Y, Miyagawa S, Saito A, Sawa Y, Matsuura N, Nagata K, Yamamoto H, Kawaguchi N. Laminin α 2-secreting fibroblasts enhance the therapeutic effect of skeletal myoblast sheets. *Eur J Cardiothorac Surg.* 2017, 1;51(3):457-464
- Minami K, Hamada Y, Kawaguchi N, Mori S, Nakatani K, Tsubouchi K, Hayashi N, Yamamoto H, and Koizumi M, The Combined Effect of an Anti-microtubule Agent TZT-1027 and Radiation on Tumor Angiogenesis, *Nano Biomedicine.* 2016, 8(2): 83-90
- Sotobayashi D, Kawahata H, Anada N, Ogihara T, Morishita R, Aoki M. Therapeutic effect of intra-articular injection of ribbon-type decoy oligonucleotides for hypoxia inducible factor-1 on joint contracture in an immobilized knee animal model. *J Gene Med.* 2016, 18(8):180-92.
- Mori HM, Kawanami H, Kawahata H, Aoki M. Wound healing potential of lavender oil by acceleration of granulation and wound contraction through induction of TGF- β in a rat model. *BMC Complement Altern Med.* 2016 May 26; 16: 144. doi: 10.1186/s12906-016-1128-7.
- Yamamoto M, Yamasaki M, Sugimoto K, Maekawa Y, Miyazaki Y, Makino T, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Takiguchi S, Rakugi H, Mori M, Doki Y. Risk Evaluation of Postoperative Delirium Using Comprehensive Geriatric Assessment in Elderly Patients with Esophageal Cancer. *World J Surg.* 2016 Nov;40(11) P.2705-2712
- Maekawa Y, Sugimoto K, Yamasaki M, Takeya Y, Yamamoto K, Ohishi M, Ogihara T, Shintani A, Doki Y, Mori M, Rakugi H. Comprehensive Geriatric Assessment is a useful predictive tool for postoperative delirium after gastrointestinal surgery in old-old adults. *Geriatr Gerontol Int.* 2016, 16(9):1036-42.
- Ishikawa S, Sugioka K, Sakamoto S, Fujita S, Ito A, Norioka N, Iwata S, Nakagawa M, Takagi M, Miki Y, Ueda M, Yoshiyama M. Relationship between tissue Doppler measurements of left ventricular diastolic function and silent brain infarction in patients with non-valvular atrial fibrillation. *European Heart Journal – Cardiovascular Imaging Advance Access published December 29, 2016.*
- Nakagawa M, Naruko T, Sugioka K, Kitabayashi C, Shirai N, Takagi M, Yoshiyama M, Ohsawa M, Ueda M. Enhanced expression of natriuretic peptide receptor-A and

- B in neutrophils of culprit lesions in patients with acute myocardial infarction. *Molecular Medicine Reports*. 2017 (in press)
- Watanabe O, Chompikul J. Factors Influencing the Intention to Leave Elderly Care Among Village Health Volunteers In Muang District, Nakhon Ratchasima Province, Thailand. *Journal of International Health*.2016, 36(1):1-11.
 - Yoshida A, Fujio T, Sato F, Ali MSS, Haque T, Ohara H, Moritani M, Kato T, Dostrovsky JO, Tachibana Y. Brain structure and function orofacial proprioceptive thalamus of the rat. *Brain Struct Funct*. 2017, in press.
 - Kudo S, Hatanaka Y. Comparison of the foot kinematics during weight bearing between normal foot feet and the flat feet. *The Foot and Ankle Online Journal*,2016, 9 (1): 2
 - Kudo S, Nakamura S. Relationship between hardness and deformation of the vastus lateralis muscle during knee flexion using ultrasound imaging. In press 2016
 - Horii R, Isaka M, Oonishi K, Yabe T, Oku Y. Coordination between respiration and swallowing during noninvasive positive pressure ventilation. *Respirology*. 2016, 21:1062-1067.
 - Miyamoto T. System physiology of respiratory control in man. *J Phys Fitness Sports Med*. 2016, 5: 329-337. Review
 - Kawai E, Nakahara H, Ueda S, Manabe K, Miyamoto T. A novel approach for evaluating the effects of odor stimulation on dynamic cardiorespiratory functions. *PLoS One*. 2016, 12, e0172841.
 - Miyamoto T. A systems analysis approach to understanding respiratory control in humans. *Proc Life Engineering*. 2016, 16:15-18.
 - Kawai E, Okazaki K, Nakahara H, Ueda S, Yamamoto H, Miyamoto T. Fragrance stimulation by inhaling grapefruit essential oil increases blood pressure through the central olfactory sensing mechanisms. *Proc Life Engineering*. 2016, 16: 239-242.
 - Nakahara H, Ueda S, Kawai E, Miyamoto T. Differential effects of manual acupuncture at the ear and lower extremity on cardiovascular responses in human subjects. *Proc Life Engineering*. 2016, 16: 228-231.
 - Mori HM, Iwahashi H. Characterization of radicals arising from oxidation of commercially-important essential oils. *Free Radic Res*. 2016, 50(6): 638-644.
 - 伊津美孝子, 間嶋由貴恵. 中間看護管理者の看護管理情報活用力尺度の開発. *教育システム情報学会誌*. 2017, 34(3).
 - 酒井ひろ子.ニコチン薬理作用・ニコチン依存度の性差～女性の禁煙対策の課題～. *日本ウーマンズヘルス学会誌*.2016, 14(2) : 1-7.
 - 神崎真姫,酒井ひろ子.被災地の高校生が生と性に対する思い～生と性を伝える活動から見たもの～. *日本保健医療行動科学会雑誌*.2016,30(1) : 49-60.
 - 道脇理嘉,堀竜次,中村孝人,矢田定明,百武威,澤端章好. 気管腫瘍に対して管状切除術が施行され術後リハビリテーションを行った症例. *日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌*. 2016. 26(2): 349-352.
 - 下西徳,嶋崎勇介,堀竜次,中村孝人. 排便時の姿勢・動作指導により呼吸困難が改善した慢性閉塞性肺疾患の一例. *日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌*. 2016. 26(2): 353-355.
 - 三木屋良輔. サルコペニアを呈する高齢者への運動効果について. *森ノ宮医療大学紀要*. 2017 (in press)
 - 山下仁, 増山祥子. 日本の鍼灸研究の変移—20 世紀後半と 21 世紀初頭の概況の比較— . *社会鍼灸学研究*. 2016, 10: 20-25.
 - 古瀬暢達, 内野容子, 山下仁. 鍼治療と B 型・C 型肝炎感染に関する文献レビュー. *全日本鍼灸学会雑誌*. 2016, 66(3): 166-179.
 - 古瀬暢達, 上原明仁, 菅原正秋, 山崎寿也, 新原寿志, 山下仁. 鍼灸安全性関連文献レビュー—2012～2015 年. *全日本鍼灸学会雑誌*. 2016, 67(1): 29-47.
 - 三瀬雅史, 今別府文昭, 波多野弥生, 遠藤容子, 黒木由美子, 水谷太郎, 吉岡 敏治. 虫よけ剤およびワンプッシュ式殺虫剤による中毒事故. *中毒研究*. 2017, 30(1): 56-61.
 - 宮本忠吉, 上田真也, 真鍋幸, 河合英理子, 中原英博. システム制御理論を用いた呼吸

- 化学調節系の動的フィードバック制御機能の定量評価. 森ノ宮医療大学紀要. 2016, 9. 10:107-116.
- 松熊秀明. 高齢者のフレイルにおける鍼灸治療の役割と可能性. 森ノ宮医療大学紀要. 2017 (in press)
 - 堀川奈央, 大月隆史, 鍋田智之. 不眠に与える灸セルフケアの影響, 森ノ宮医療大学紀要. 2016, 11:87-94.
 - 鍋田智之, 大月隆史, 辻丸泰永, 堀川奈央, 仲西宏元. 温灸を用いた灸セルフケアが夜間覚醒回数に与える影響 —ランダム化比較試験—. 全日本鍼灸学会雑誌. 2017, 67(1) : 15-22.
 - 藤重仁子. アメリカにおける補完代替医療の「復興」と移民: 鍼治療を事例として. 森ノ宮医療大学紀要. 第11号. P.77~86.
 - 杉岡憲一, 仲川将志, 大澤政彦, 上田真喜子. 動脈および静脈の加齢による病理学的変化. 臨床透析 vol.32 no.7 775—785, 2016
 - 竹岡啓子, 日高洋, 菱沼昭, 池田勝義, 大久保滋夫, 土屋達行, 橋口照人, 古田耕, 堀田多恵子, 松下一之, 松本祐之, 村上正巳, 前川真人. 甲状腺刺激ホルモン (TSH) のハーモナイゼーション. 臨床病理 第64巻 第4号 (2016年4月) pp.375-379.
 - 小林彩香, 木村雅友, 植田清文, 田中千琴, 榎木英介, 筑後孝章, 上杉忠雄, 佐藤隆夫
 - 気管支肺胞洗浄液細胞診が有用であったアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (allergic bronchopulmonary aspergillosis : ABPA) の1例 (Cytology of bronchoalveolar lavage fluid can aid in the diagnosis of allergic bronchopulmonary aspergillosis: a case study) 日本臨床細胞学会雑誌 第55巻 第6号 (2017年01月12日) p.401-405
 - 福森優司, 高橋裕美, 前川佳敬. キーパーソン (Key person) が意思決定する際に抱える精神的負担の検証. 医療と福祉 No.101 Vol.50-No.2 2017-3.
 - 佐々木梢, 木野田利枝, 松下太. 作業療法士の感染対策意識と今後の課題 —アンケート調査を通して—. INFECTION CONTROL (in press)
 - 松下太. 認知症の人へのリハビリテーションアプローチによる生活行為と QOL の改善. 森ノ宮医療大学紀要 (in press)
 - 橋本弘子. 高齢パーキンソン病患者が楽しめるパーキンソンダンス. 臨床老年看護. 2016, 23 (5) : 18-24.
 - 倉澤茂樹, 横井賀津志, 中谷謙, 中俣恵美, 野口法子, 加藤美朗, 大歳太郎, 立山清美. 特別支援学校における医師等の専門家の就業状況. LD 研究. 2017, 26(1) : 87-99.

4) 平成 28 年度連携協定

- ①平成 28 年 6 月 1 日 大阪府立成人病センター 相互連携
- ②平成 28 年 8 月 22 日 常翔学園 大学間連携

5) 社会貢献事業：平成 28 年度実施の公開講座

- ①市民公開講座 (急性期総合医療センターとの連携事業)
 - 平成 27 年 6 月 19 日 (日) 第 1 回「乳がん」
 - 基調講演 乳がん—最近の進歩—
 - 講演Ⅰ 乳がん手術とリハビリテーション
 - 講演Ⅱ リンパ浮腫の予防とケア
 - 講演Ⅲ がん疼痛と鍼灸療法
 - 平成 27 年 9 月 11 日 (日) 第 2 回「骨粗鬆症」
 - 基調講演 骨粗鬆症—最近の進歩—
 - 講演Ⅰ 骨粗鬆症と臨床検査
 - 講演Ⅱ 骨粗鬆症とリハビリテーション
 - 講演Ⅲ 腰痛の鍼灸療法
 - 平成 27 年 10 月 30 日 (日) 第 3 回「高齢者と眼疾患」
 - 基調講演 高齢者と眼疾患—最近の話題—

- 講演Ⅰ 高齢者の眼疾患とケア
- 講演Ⅱ 眼精疲労と鍼灸
- 講演Ⅲ 視力障害者の支援

②駅前健康講座（大学経営企画室主催）

- ・平成28年7月27日（水）第2回「メンタルヘルス」
森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 来栖 清美
- ・平成28年12月7日（水）第3回「ニューロダンスでリフレッシュ」
森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授 橋本 弘子

6) 大学院保健医療学研究科

①研究指導および学位授与

特別研究（いわゆる修士論文）の指導を行い、5名の修了者に修士（保健医療学）の学位を授与した。

②教育課程の改訂

大学院教育の現状、学生のニーズ、および博士後期課程が設置された場合の修士課程の位置づけなどを勘案し、平成29年度からの大学院カリキュラム改訂を行った。

③博士後期課程設置申請

大学企画室および教務室との協働により文部科学省への相談を重ね、平成30年度開設予定として保健医療学研究科医療科学専攻博士後期課程の設置認可申請書類を作成し、平成29年3月に文部科学省に提出した。

④学術セミナーの開催

各学科および研究科で分担していただき毎月（計12回）、大学院学術セミナーを開催した。講師は本学教員10名、外部招聘2名が担当した。

7) 人権問題啓発活動（人権委員会主導）

① 研修会の開催

日時：平成29年3月9日
講師：森ノ宮医療大学 広報室 小林信恵先生
研修会テーマ：ハラスメントのないキャンパスにするには

② アカデミックハラスメント防止・啓発DVDの購入と上映

日時：平成29年3月9日

④ ハラスメントに関する教職員アンケートの実施

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
鍼灸学科	1年生	68	64	67	67
	2年生	61	67	63	64
	3年生	51	58	64	61
	4年生	57	57	60	68

	計	237	246	254	260
	定員	240	240	240	240
	定員充足率	98.8%	102.5%	105.8%	108.3%
	退学者数	9	7	6	-
	退学率	3.7%	2.8%	2.4%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
理学療法 学科	1年生	68	70	70	70
	2年生	65	67	70	70
	3年生	64	63	62	69
	4年生	82	70	69	71
	計	279	270	271	280
定員		240	240	240	240
定員充足率		116.3%	112.5%	112.9%	116.7%
退学者数		5	9	9	-
退学率		1.7%	3.3%	3.3%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
看護学科	1年生	88	90	90	90
	2年生	85	88	89	87
	3年生	86	83	86	87
	4年生	82	97	96	91
	計	341	358	361	355
定員		320	320	320	320
定員充足率		106.6%	111.9%	112.8%	110.9%
退学者数		8	6	6	-
退学率		2.3%	1.7%	1.7%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
臨床検査学科	1年生			72	72
	2年生				72
	3年生				
	4年生				
	計			72	144
定員				60	120
定員充足率				120%	120%
退学者数				0	-
退学率				0.0%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
作業療法学科	1年生			50	50
	2年生				47
	3年生				
	4年生				
	計			50	97
定員				40	80

定員充足率			125%	121.3%
退学者数			3	-
退学率			6%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
学部計	1年生	224	224	349	349
	2年生	211	222	222	340
	3年生	201	204	212	217
	4年生	221	224	225	230
	計	857	874	1008	1136
定員		800	800	900	1000
定員充足率		107.1%	109.3%	113.6%	113.6%
退学者数		22	22	24	-
退学率		2.5%	2.5%	2.4%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
大学院	1年生	7	5	5	4
	2年生	8	7	5	5
	計	15	12	10	9
定員		12	12	12	12
定員充足率		125.0%	100%	83.3%	75.0%
退学者数		0	0	0	-
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	-

学生数		H26.5.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
助産学専攻科	1年生			10	10
	計			10	10
定員				10	10
定員充足率				100%	100%
退学者数				1	-
退学率				10%	-

②平成 29 年度入学試験受験者数

H29 年度 看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第 1	第 2・3	計	第 1	第 2・3	計	第 1	第 2・3	計
A0	94	3	97	93	3	96	8	0	8
公募推薦 前期	341	9	350	338	9	347	36	0	36
公募推薦 後期	230	10	240	223	9	232	14	0	14
一般 前期 A 日程 3 科目	121	6	127	114	6	120	17	0	17
一般 前期 A 日程 2 科目	209	5	214	199	5	204	28	0	28
一般 前期 B 日程 3 科目	70	7	77	62	6	68	8	0	8
一般 前期 B 日程 2 科目	108	2	110	95	2	97	14	0	14
一般 中期	131	6	137	126	6	132	16	0	16
一般 後期	72	6	78	67	6	73	7	0	7
社会人 I 期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
社会人 II 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	4	0	4	4	0	4	4	0	4
計	1381	54	1435	1214	52	1322	152	0	152

H29 年度 理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第 1	第 2・3	計	第 1	第 2・3	計	第 1	第 2・3	計
A0	63	14	77	63	14	77	8	0	8
公募推薦 前期	146	59	205	145	59	204	18	0	18
公募推薦 後期	95	31	126	95	29	124	7	0	7
一般 前期 A 日程 3 科目	24	15	39	24	15	39	6	0	6
一般 前期 A 日程 2 科目	56	24	80	56	23	79	13	0	13
一般 前期 B 日程 3 科目	18	12	30	16	10	26	3	0	3
一般 前期 B 日程 2 科目	42	12	54	39	10	49	10	0	10
一般 中期	33	28	61	30	27	57	5	0	5
一般 後期	15	12	27	15	12	27	6	0	6
社会人 I 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	23	0	23	23	0	23	23	0	23
計	515	207	722	506	199	705	99	0	99

H29 年度 作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第 1	第 2・3	計	第 1	第 2・3	計	第 1	第 2・3	計
A0	21	17	38	21	17	38	16	3	19
公募推薦 前期	31	71	102	31	70	101	17	12	29
公募推薦 後期	13	42	55	13	40	53	4	0	4
一般 前期 A 日程 3 科目	8	23	31	8	22	30	3	0	3
一般 前期 A 日程 2 科目	13	25	38	13	25	38	6	0	6
一般 前期 B 日程 3 科目	2	20	22	2	18	20	1	0	1
一般 前期 B 日程 2 科目	7	13	20	7	10	17	2	0	2
一般 中期	7	37	44	7	34	41	2	0	2
一般 後期	4	20	24	4	18	22	2	1	3
社会人 I 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II 期	1	0	1	1	0	1	1	0	1
指定校推薦	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	113	268	381	113	254	367	60	16	76

H29年度 臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	40	11	51	40	11	51	5	0	5
公募推薦 前期	102	41	143	102	40	142	22	0	22
公募推薦 後期	75	28	103	71	27	98	12	0	12
一般 前期A日程 3科目	30	9	39	30	8	38	18	0	18
一般 前期A日程 2科目	66	14	80	66	13	79	25	0	25
一般 前期B日程 3科目	20	7	27	19	7	26	7	0	7
一般 前期B日程 2科目	37	8	45	35	7	42	15	0	15
一般 中期	43	15	58	42	13	55	11	0	11
一般 後期	22	7	29	21	6	27	4	1	5
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	2	0	2	2	0	2	2	0	2
計	437	140	577	428	132	560	121	1	122

H29年度 鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0 I期	14	17	31	14	17	31	12	13	25
スポーツ A0	7	0	7	7	0	7	7	0	7
公募推薦 前期	13	25	38	12	25	37	12	12	24
公募推薦 後期	1	17	18	1	17	18	0	8	8
一般 前期A日程 3科目	2	6	8	2	6	8	2	3	5
一般 前期A日程 2科目	3	11	14	3	11	14	2	3	5
一般 前期B日程 3科目	1	5	6	1	4	5	1	0	1
一般 前期B日程 2科目	1	8	9	1	8	9	1	2	3
一般 中期	1	19	20	1	19	20	1	10	11
一般 後期	3	12	15	3	11	14	2	5	7
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	17	0	17	17	0	17	17	0	17
計	63	120	183	62	118	180	57	56	113

③平成 29 年度 大学院入学試験受験者数

H28年度 大学院研究科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	0	0	0	0
第2次募集	4	4	4	4
第3次募集	0	0	0	0
計	4	4	4	4

④平成 29 年度 助産学専攻科入学試験受験者数

H28年度 助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試 I	11	11	7	7
推薦入試	0	0	0	0
学内推薦入試	3	3	3	3

一般入試Ⅱ	0	0	0	0
計	14	14	10	10

⑤国家試験合格率

はり師・きゅう師 国家試験

区 分		平成28年度(第25回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者	はり師	52	45	86.5%
	きゅう師	52	46	88.5%
本学のべ受験者	はり師	63	47	74.6%
	きゅう師	62	47	75.8%
全国平均	はり師	4,528	3,032	67.0%
	きゅう師	4,444	3,010	67.7%

理学療法士 国家試験

区 分		平成28年度(第52回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		45	45	100%
本学のべ受験者数		60	58	96.7%
全国平均		13,719	12,388	90.3%

看護師 国家試験

区 分		平成28年度(第106回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		87	84	96.6%
本学のべ受験者数		87	84	96.6%
全国平均(新卒者)		56,381	53,177	94.3%

保健師 国家試験

区 分		平成28年度(第103回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		9	9	100%
全国平均(新卒者)		7,590	7,172	94.5%

⑥職種別求人件数

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。はり師、きゅう師・理学療法士・看護師・保健師に加えて、助産師・作業療法士・臨床検査技師などの求人や、柔道整復師などのその他の医療従事者、大学生卒業者を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

職種	件数
理学療法士	808
看護師	369
はり師・きゅう師	356
作業療法士	501
助産師	116
保健師	63
臨床検査技師	37
その他の医療従事者	345
事務職	41
営業職	23
介護士	8
その他	64
サービス業	6
販売職	8
教員	13
総計	2758

<有効求人倍率について>

本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 平成 28 年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.74 倍（リクルートワークス社調べ）

	鍼灸学科	理学療法学科	看護学科
求人件数（件）	356	808	548
求職者数（人数）	54	52	89
求人倍率（倍）	6.59	15.5	6.16

3. 森ノ宮医療学園専門学校

(1) 実施事業の概要

学園の第1期中期経営計画の到達目標は「関西圏の医療系専門学校の中でトップクラスになる」を掲げ、「私たちは、伝統医学を継承し技を極め、心ある臨床家を育てます」を専門学校のミッションに定めている。これらを達成するため、平成28年度については、以下の主要事業を展開した。

1) 教育事業

①カリキュラムの検討

平成30年度から施行となる「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」ならびに「柔道整復師学校養成施設指定規則」の一部改正と養成施設指導要領（ガイドライン）の一部改正が予定されていることに注視し、平成30年度入学生からの鍼灸学科ならびに柔道整復学科の教育課程（カリキュラム）について検討を行った。

これらの改正により、教育課程の編成に当たって、はり師きゅう師養成施設にあっては94単位以上で、2,655時間以上、柔道整復師養成施設にあっては、99単位以上で、2,750時間以上に規定されることを踏まえ、現行のカリキュラムから大幅に単位数及び時間数を増加させる内容の検討や施行時の運営方法についても検討を行った。

本校カリキュラムの改定については、平成29年度上半期中に確定し、平成30年度施行を予定している。

②入学者・在學生・卒業生へのフォローアップ充実

【教務部】

- ・ 「アロマ講座」を例年通り春、秋の2回開講した。春秋合わせて27名が受講したほか、平成28年度から森ノ宮医療大学大学院の助産学専攻科からの受講が始まり、先の27名とは別に13名が受講した。
- ・ 「NESTA PFT 認定講座」について、昨年度は2回開講したが、平成28年度は1回開催とした。また、新たに本校独自のフォローアップセミナーを開講し、本校PFT認定講座の価値を高めることができた。
- ・ 校友会の協力を得て、Hal Townsend先生の講演会を開催した。
- ・ アメリカ研修（フロリダ）については、例年通り3月に実施し、在校生4名、卒業生2名の計6名が参加した。

【鍼灸学科】

- ・ 授業時間外に実施している既存の「とくゼミ」や「実技ゼミ」の継続と成績不良者に対する自学習の機会として「OPEN教室」を新規に開設した。
- ・ 基礎医学科目の理解度を深めるための「基礎医学ゼミ」についても実施を継続した。
- ・ 在校生および入学試験合格者に対する受療体験の実施を継続した。
- ・ 在校生・卒業生に向けた森ノ宮鍼灸セミナー「臨活」については年8回実施した。
- ・ 新たな試みとして、新入生に対して、入学時オリエンテーションにおいて、学校の沿革を校長から伝える機会を設けた。
- ・ 各学年において、担任が面談を行い、学生カルテを作成し、退学等を抑制することができた。

【柔道整復学科】

- ・ 新入生の早期から「学ぶ」意味を伝えるため、入学時オリエンテーションで「学習前教育」の講演を行った。
- ・ 国家試験対策の一環として、1年生成績不振者を対象に基礎医学科目の理解度を深めるための「基礎ゼミ」を継続実施した。
- ・ 授業時間外の帯時間を利用し、学生希望者に対して更なる臨床的な理論や技術を習

得することを目的として「1UPゼミ」を新たに開設した。

- ・ 2年生に対しては、ドリル課題を希望者に対して実施を継続した。
- ・ 3年生については、実技卒試・財団実技審査によって勉学に影響が出ることを勘案して、その期間においても余裕をもって学業に励めるよう「実技ゼミ」を開催した。
- ・ 欠席者や成績不良者に対して、早期の連絡・面談についても実施を継続した。

【両学科共通】

鍼灸学科、柔道整復学科共通の新たな試みとして、夏期に日本 ACLS 協会認定の資格取得講習会を8月に実施し、全員合格することができた。

③国家試験対策

【鍼灸学科】

3年生に対して国家試験対策ドリル課題の実施を継続し、国家試験が不合格となった卒業生に対して対策ゼミ「Sクラス」を学内だけでなく、他学園卒業生も対象として実施した。はり師・きゅう師国家試験については、難易度がさらに上がったため、合格率が下がっており、急遽今後の対策について検討を行った。今後は1・2年次の基礎学習力の重要性が浮き彫りになったことから、平成29年度には様々な施策を導入予定である。なお、既卒者の対策ゼミ参加者の国家試験合格率には大幅な改善が認められたので、内容については既存の内容を継続する予定。

【柔道整復学科】

最近の国家試験合格率の低迷を受け、3年生の三科目模試の継続や卒業試験前の「必須対策ゼミ」及び国家試験直前の「集中ゼミ」を継続実施し、ティーチングアシスタント制度（TA制度）も継続した。また、前期より小テスト問題を配布し、まとめノートを提出させた。さらに、成績不振者やそれに準じる学生については「小テストゼミ」を実施した。以上の施策により、平成28年度国家試験合格率については、新卒者全国平均より上回る結果となった。

2) 事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度の業務手順書等の整備を元に、業務改善や経費削減について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【学務課】

- ① 入学予定者を対象とした株式会社進研アド提供による入学前教材（通信教育）の受講料を無料としたことにより、受講率がアップした。
- ② 新教務システムを導入し、業務効率上げる努力をした。
- ③ 求人票管理のルールを簡素化し、学生への就職指導に割く時間を増大させた。

【総務課】

- ① 経費削減の取り組み
 - ・ 入試情報管理システムを発注としていたが、課内で Access を利用した管理システム作成することにし、経費節減に努める決定をした。このシステムは H29 年度から使用開始し、不具合箇所を修正しながら完成度を高めていく予定である。
 - ・ 各部署での消耗品経費を管理し、経費削減に取り組んだ結果、前年度対比で2年連続約30%削減となった。
- ② 業務効率の改善
 - ・ 遅刻対応用プリンターを導入し、受付業務の効率化と学生サービス向上を図り、衛生委員会と連携して時間外業務の削減に取り組む、前年度比で一般職が26%、管理職で30%削減することができた。
- ③ その他
 - ・ 空調装置更新工事の補助金申請について、管理課と協同して取り組んだ。

【管理課】

- ① 本校舎1階、2階の空調装置更新工事を5月に行い、文部科学省「エコキャンパス

推進事業」に申請・採択され、555万円の補助金が交付された。

- ② 総務課と協同で学内コンビニ設置を検討したが、設置については一旦中止とする決定をした。
- ③ その他、施設・設備については、老朽化に伴う修繕、取換え等を行った。
- ④ 夜間部のイメージ向上対策として、本校舎玄関、アネックス駐輪場の照度アップを実施した。
- ⑤ 3年に1度実施が義務付けられている建物定期調査を受審し、大阪市に報告した。

【経理課】

- ① 部門別経費執行状況については、2ヶ月遅れで開示出来るようにする一方、部署内での経費執行については、共通部門を整理し、現状にあった対応に変更した。
- ② 未納者、延分納の在校生に対しては、学生と直接面談することに心がけたことにより、延納期日・納付期日の徹底が行えた。
- ③ ワークフローについて、総務課と協同し、チェック体制を構築した。
- ④ 出版部の会計について担当者を設定し、業務改善に取り組んだ。

【広報課】

- ① 昨年実施したホームページのリニューアルでは、高校生と社会人を分けた構成になっておらず、高校生と社会人別に訴求することに特化したランディングページを作成し、検索エンジン等から、それぞれの層が直接アクセスできるような機能を追加した。
- ② 高校ガイダンスの参画、出張講座の実施、オープンキャンパスの運営については例年通りとした。
- ③ 認知度向上を目的に春と秋にテレビ大阪主催のファミリーマラソンへの協賛を継続実施した。

【企画課】

- ① 外部連携可能な団体の調査及び協同活動
 - ・ 大阪社会体育専門学校との連携協定を踏まえ、相互の学校に通学するいわゆるダブルスクールが可能な「AT特修コース」の立上げに関与した。
 - ・ 近江高校柔道大会の救護活動に参画する機会を得た。
- ② 専門学校各部署の支援活動
 - ・ 広報課には、AT特修コース募集要項作成、高校訪問・学生アンケート実施支援
 - ・ 教務部の開業支援講座・スポーツ実習調査支援
 - ・ 総務課の入試システム構築の支援
 - ・ 管理課に耐震問題及び今後の方向性の提示
 - ・ 募集企画委員会再構築の関与
 - ・ 事務所内の整理整頓の牽引役
- ③ 接骨院開業プロジェクト立上げ調査を行った。
- ④ 冠柔道大会企画、経費削減、古本募金について提案を行った。

3) 募集事業

- ① テレビ大阪主催のファミリーマラソンへの協賛を継続した。
- ② 夜間部の募集低下対策として、夜間部プロジェクトチームの発案により、イベントセミナーとして「【女性限定！連続講座】ここ+からカレッジ」を平成28年5月11日～7月20日の隔週水曜日に大阪ビジネスパークにて、全6回開催した。
- ③ 11月16日(水)に生駒たけまるホールにおいて、「奈良出張学校相談会」を開催した。なお、これに先だって、奈良どっとFMにこの相談会PRのため、教員が生出演した。
- ④ 在学生の「学生生活アンケート」を実施し、学生ニーズの把握をするとともに、今後の募集施策等の検討を行った。
- ⑤ 募集企画委員会において、本校の価値評価として、「臨床の森ノ宮」を再確認し、下期の募集活動のキーワードとして、オープンキャンパスや外部発信の際にアピー

ルを行った。

(2) 事業成果の概要

① 在籍学生数

(単位：人)

平成 29 年 4 月 1 日現在	1 年			2 年			3 年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学科	昼	66	2	0	65	4	1	81	8	0	212	14	1
	夜	18	0	0	12	1	0	22	1	0	52	2	0
柔道整復 学科	昼	50	4	0	72	6	1	69	8	0	191	18	1
	夜	10	0	0	11	2	2	21	4	0	42	6	2
合計		144	6	0	160	13	4	193	21	0	492	40	4

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

平成 28 年 4 月 1 日現在	1 年			2 年			3 年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学科	昼	71	3	0	80	5	1	65	6	0	216	14	1
	夜	14	1	0	21	4	1	25	6	0	60	11	1
柔道整復 学科	昼	78	2	0	74	4	0	67	8	1	219	14	1
	夜	8	0	0	21	2	2	21	6	0	50	8	2
合計		171	6	0	196	15	4	178	26	1	545	47	5

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

平成 27 年 4 月 1 日現在	1 年			2 年			3 年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学科	昼	86	3	1	65	4	1	98	13	0	249	20	2
	夜	24	2	1	29	2	2	41	8	1	94	12	4
柔道整復 学科	昼	85	4	0	72	5	2	72	5	1	229	14	3
	夜	20	0	0	20	4	3	44	9	0	84	13	3
合計		215	9	2	186	15	8	255	35	2	656	59	12

* 留年および休学は在籍者数の内数

② 年度別退学者数

(単位：人)

年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 27 年度
退学者数	50	47	42	51	34
退学者比率	5.4%	5.3%	5.8%	7.8%	6.2%
在学学生数	932	879	725	656	545

③志願者数の推移

(単位:人)

入学年度			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
学科	部	定員	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前	60	—	—	—	64	74	62	39	45	50	56
	ア(医療)	60	31	35	33	13	19	11	5	13	4	—
	昼		112	101	89	53	51	41	33	21	27	18
	夜	60	52	69	39	53	52	44	33	21	16	20
	未定	—	—	—	—	—	—	—	—	19	0	—
柔整	ア	30	23	22	22	30	44	43	28	34	25	23
	昼	60	115	96	90	87	96	69	58	52	54	26
	夜	90	54	57	54	68	69	60	25	22	9	11
	未定	—	—	—	—	—	—	—	—	6	0	—
合計		533	387	380	327	368	405	330	221	233	185	154

※ア…アドバンスコース、ア(医療)…アドバンスコースもしくは医療資格者コース

④ 国家試験合格率の推移

<平成 28 年度>

はり師きゅう師 国家試験 (第 4 2 期)

家試験成績		平成 28 年度 (第 2 5 回) 2 9 年 2 月 実 施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	はり師	72	56	77.8%
	きゅう師	72	56	77.8%
当校のべ受験者	はり師	122	69	56.5%
	きゅう師	120	68	56.6%
全国平均	はり師	4528	3032	67.0%
	きゅう師	4444	3010	67.7%

柔道整復師国家試験 (第 1 5 期)

試験成績		平成 28 年度 (第 2 5 回) 2 9 年 3 月 実 施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	柔道整復師	65	54	83.1%
全国現役受験者	柔道整復師	4527	3789	82.9%
当校のべ受験者	柔道整復師	141	68	48.2%
全国のべ平均	柔道整復師	6727	4274	63.5%

<平成 27 年度>

はり師きゅう師 国家試験 (第 4 1 期)

家試験成績		平成 2 7 年度 (第 2 4 回) 2 8 年 2 月 実 施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	はり師	113	96	85.0%
	きゅう師	113	97	85.8%
当校のべ受験者	はり師	162	103	63.6%

	きゅう師	162	104	64.6%
全国平均	はり師	4976	3307	74.1%
	きゅう師	4893	3345	75.6%

柔道整復師国家試験（第14期）

試験成績		平成27年度（第24回）28年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	柔道整復師	98	83	74.5%
全国現役受験者	柔道整復師	4979	4273	82.3%
当校のべ受験者	柔道整復師	185	90	51.4%
全国のべ平均	柔道整復師	7115	4503	64.4%

⑤ 就職状況

●本校に対する求人倍率

本校の職業紹介利用者	本校の求人倍率	全国の求人倍率（参考）
78人	39.3倍	1.36倍

●初任給平均額

《正社員》

	月給平均（円）	最高額（円）	最低額（円）	求人数（件）
鍼灸師	198,176	300,000	95,000	678
柔道整復師	205,109	300,000	95,000	766
学生	164,664	230,000	53,000	163

《アルバイト》

	時給平均（円）	最高額（円）	最低額（円）	求人数（件）
鍼灸師	1024	1,800	800	272
柔道整復師	1049	2,000	762	289
学生	908	1,800	750	377

4. 森ノ宮医療学園附属診療所

4-1. みどりの風鍼灸院

(1) 人員

平成 28 年度は常勤 4 人、非常勤（教務：金曜日午前診）1 人の 5 人体制で対応した

(2) 鍼灸院業務日数

①診療日数	239 日
②休診日	
a) 土曜・日曜・祝日	118 日
b) 夏期休診日	3 日 (8/12～8/16)
c) 年末年始休診日	6 日 (12/29～1/3)
d) 日本東洋医学会：香川県大会	1 日 (6/3)
e) みどりの風鍼灸院：開院記念日	1 日 (6/1)

(3) 鍼灸院行事

- ①日本東洋医学会：香川県大会：3 日間（平成 28 年 6 月 3 日～5 日）
- ②日本臨床鍼灸懇話会全国集会（大阪大会）：2 日間（11 月 26 日、27 日）
- ③毎月第 1 月曜日：クリニック・鍼灸院合同定例会議（AM 8:00 ～）

(4) 鍼灸院学術活動

- ①学会発表・活動
 - a) 「子供のためのかんたんツボ講座」第 2 回（もりのみやキューズモール：株東急スポーツオアシス「キッズパーク」平成 28 年 7 月 14 日（木）14：00～）
 - b) 「東洋医学における歯科領域への応用およびヘルスケア」第二回目（第 122 回症例検討会（歯科医・歯科衛生士）新大阪丸ビル別館）平成 28 年 6 月 12 日（日）12：30
 - c) 「喘息に対する中医学的なアプローチの再考」第 55 回日本臨床鍼灸懇話会全国集会大阪大会：教育講演 平成 28 年 11 月 26 日（土）
- ②基礎ゼミ
「東洋医学基礎ゼミ」（専門学校 2・3 年対象：10 月／4 回）

(5) 鍼灸院診療時間

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00～11:00	○	○	○	○	○	×
午後診 1:30～4:00	○	○	○	○	○	×
夜間診 4:30～7:30	○	○	×	○	○	×
休診日	土曜日、日曜日、祝日					

(6) 鍼灸学科臨床実習

- ①鍼灸学科臨床実習プログラムの進行
従来通りに「各学生の技能に併せた参加・ステップアップ方式」を実施。
- ②実習参加時間帯
 - ・昼間・医療資格コース（1～3年）：午前診
 - ・夜間コース（1～3年）：午後診
 - ・午前コース（1年）：午後診

- ・午前コース（2年）：午後診
- ・午前コース（3年）：午後診と夜診のスクランブル

③臨床実習の向上について

鍼灸学科学生の鍼灸実技・臨床能力、臨床実習内容のスキルアップを図る

- a) 1回／月：鍼灸院院長と鍼灸学科学科長の定例ミーティングを実施。
- b) 前年度と同様に臨床実習と鍼灸実技授業のリンクと技術向上を狙って、鍼灸学科前期の1年生実技試験(7月5日の午前、医昼、夜の全コース)において鍼灸院スタッフ2名が血圧測定の評価を行った。(血圧測定は1年次の臨床実習プログラムである)

(7) 卒後研修制度実施について

- ①平成28年4月から3名の卒業生(平成28年3月卒業)を受け入れ1年間(最長2年間まで)の卒後臨床研修を開始した。(1名は1年間、2名は2年間 AcuPOPJ 併用)
- ②前年度と同様に平成28年度5月から国民のための鍼灸医療推進機構 (AcuPOPJ) が主催する鍼灸師卒後臨床研修を実施。新たに2名の鍼灸師が2年間の研修を行う。(1名は、最終年度の2年目である。2名は1年目である)

国民のための鍼灸医療推進機構 (AcuPOPJ) は4つの団体が協力して設立した任意団体である。(①公益社団法人 日本鍼灸師会、②公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会、③公益社団法人 全日本鍼灸学会、④公益社団法人 東洋療法学校協会)

※研修生は合計4名：①と②については3名の鍼灸師が重複している

(8) 入学前の鍼灸治療体験の導入

最近の鍼灸学科入学者において一度も鍼灸治療を経験したことがない学生が増加傾向にある。そこで、専門学校鍼灸学科の入学内定者に対して、入学者本人と本人の家族1名の無料体験を実施した。最終、16名(内家族3名)が受療を体験した。

(9) 患者数の増加ため森ノ宮医療学園在学生患者の獲得

患者数の増加のための具体的な方策の一つとして森ノ宮医療学園の学生患者の増加を図った。平成26年4月より学生患者獲得のために施術料金を一部変更した。

- ・臨床実習に協力して頂ける学生患者の施術料金・・・500円
- ・上記以外の学生施術料金は現行通り・・・2,000円

平成26年度、平成27年度と平成28年度の学生患者数比(：人)

	平成26年	平成27年	平成28年
4月	29	109	85
5月	44	99	97
6月	77	154	112
7月	79	158	99
8月	59	115	85
9月	90	154	103
10月	118	168	105
11月	90	157	101
12月	113	138	91
1月	106	122	112
2月	84	146	108
3月	79	107	131
計	968	1627	1229

(10) 患者数の増加ため森ノ宮医療学園卒業生患者の獲得対策

学生患者が卒業後もリピーターとなるように卒業生の施術料金改定を実施した。平成27年4月より卒業生患者の施術料金を一部改訂した。

- ・臨床実習に協力して頂ける卒業生患者の施術料金・・・1,500円
- ・上記以外の卒業生施術料金は現行通り・・・3,300円

平成 26 年度、平成 27 年度と平成 28 年度の卒業生患者数比（：人）

	平成26年	平成27年	平成28年
4月	13	14	26
5月	10	19	29
6月	10	23	23
7月	15	23	39
8月	13	20	40
9月	12	23	44
10月	12	20	31
11月	7	25	26
12月	7	23	33
1月	7	21	29
2月	7	26	31
3月	9	21	31
計	122	258	382

(11) 臨床実習の充実を図るため、2016 年 No. 16 校友会報に卒業生及び在学生の施術料改訂を掲載した。

(12) 一般患者数の増加のため制作会社変更して新たなホームページを作成した。

(13) 患者数の増加、臨床実習内容の充実のため鍼灸学科教務教員の施術シフトへの参加
平成 27 年度の鍼灸院施術時間帯と休診日の変更にともない現在の鍼灸院スタッフに加え、患者数の増加、教務教員の臨床能力の向上、臨床実習生における実技指導のために 2 名が積極的に鍼灸院施術シフトに参加して頂いたが、平成 28 年度は教務教員が 3 名退職したために鍼灸学科教務からのシフト参加は 0 名であった。

(14) 平成 28 年度患者動向と前年度比について

①年間総患者数について

H28 年度年間総患者数は 4,687 人（月平均約 390.5 人）となる。前年度 H27 年の 5,437 人と比べて 750 人減（月平均 62.5 人減）と患者数は減少した。

②年間一般患者数について

H28 年度年間利用者総数は 3,076 人（月平均約 256.3 人）となる。前年度 H27 年の 3,552 人と比べて 476 人減と一般患者数は減少した。

③年間学生患者数について

H28 年度年間利用者総数は、1,229 人（月平均約 102.4 人）となる。前年度 H27 年の 1627 人と比べて 398 人減と学生患者数は減少した。

④年間卒業生患者数について

H28 年度年間利用者総数は 382 人（月平均約 31.8 人）となる。前年度 H27 年の 258 人と比べて 124 人増と卒業生患者数は増加した。

⑤年間新患者数について

H28 年度年間新患者数は 126 人で前年度 H27 年の 178 人と比べて 52 人減少した。

(15) 平成 26 年度から平成 28 年度の患者動向について

単位：人

	平成26年				平成27年度				平成28年度				
	全体患者(新患)	一般患者	学生患者	卒業生患者	全体患者(新患)	一般患者	学生患者	卒業生患者	全体患者(新患)	一般患者	学生患者	卒業生患者	
4月	368(14)	326	29	13	444(22)	321	109	14	365(10)	254	85	26	
5月	349(25)	295	44	10	416(15)	298	99	19	397(20)	271	97	29	
6月	388(19)	301	77	10	497(22)	320	154	23	396(10)	261	112	23	
7月	440(17)	346	79	15	542(18)	361	158	23	397(12)	259	99	39	
8月	364(13)	292	59	13	397(6)	262	115	20	369(8)	244	85	40	
9月	433(17)	331	90	12	453(14)	276	154	23	436(15)	289	103	44	
小計	2342(105)	1891	378	73	2749(97)	1838	789	122	2360(75)	1578	581	201	
10月	471(19)	341	118	12	484(18)	296	168	20	405(9)	269	105	31	
11月	364(11)	267	90	7	466(11)	284	157	25	400(4)	273	101	26	
12月	422(16)	302	113	7	442(13)	281	138	23	359(7)	235	91	33	
1月	407(8)	294	106	7	420(7)	222	122	21	364(3)	223	112	29	
2月	400(8)	309	84	7	452(8)	280	146	26	386(12)	247	108	31	
3月	422(19)	334	79	9	424(24)	296	107	21	413(16)	251	131	31	
小計	2486(81)	1847	590	49	2688(81)	1714	838	136	2327(51)	1498	648	181	
計	4828(186)	3738	968	122	5437(178)	3552	1627	258	4687(126)	3076	1229	382	
									前年度比	▲750(▲52)	▲476	▲398	124

- (16) 平成 23 年度から平成 28 年度までの総患者数、学生患者の推移
 (平成 22 年 1 月 6 日：緑橋に移転、みどりの風鍼灸院開業)

	総患者数:人	内一般患者数:人	内学生患者数:人	卒業生患者:人
平成23年度	3836	3470	366	(一般患者に含む)
平成24年度	3908	3498	410	(一般患者に含む)
平成25年度	4142	3952	190	(一般患者に含む)
平成26年度	4828	3738	968	122
平成27年度	5437	3552	1627	258
平成28年度	4687	3076	1229	382

- (17) 平成 28 年度鍼灸施術現金収入と前年度比について
 平成 28 年度鍼灸施術現金収入は、9,960,000 円。前年の 12,913,760 円と比べて
 2,953,760 円減少した。(前年度比約 22.8%減)

- (18) 平成 26 年度から平成 28 年度の患者数と鍼灸施術現金収入動向について

	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	患者数(新患):人	施術収入	患者数(新患):人	施術収入	患者数(新患):人	施術収入
4月	368(14)	¥1,075,100	444(22)	¥1,159,100	365(10)	¥828,600
5月	349(25)	¥1,047,600	416(15)	¥1,080,500	397(20)	¥918,200
6月	388(19)	¥1,089,600	497(22)	¥1,336,960	396(10)	¥862,500
7月	440(17)	¥1,274,200	542(18)	¥1,331,700	397(12)	¥845,400
8月	364(13)	¥1,045,400	397(6)	¥994,300	369(8)	¥736,500
9月	433(17)	¥1,181,800	453(14)	¥1,102,400	436(15)	¥921,600
小計	2342(105)	¥6,713,700	2749(97)	¥7,004,960	2360(75)	¥5,112,800
10月	471(19)	¥1,306,300	484(18)	¥1,170,000	405(9)	¥830,700
11月	364(11)	¥994,500	466(11)	¥919,700	400(4)	¥846,800
12月	422(16)	¥1,089,000	442(13)	¥1,113,100	359(7)	¥744,100
1月	407(8)	¥1,064,800	420(7)	¥871,200	364(3)	¥729,700
2月	400(8)	¥950,500	452(8)	¥904,600	386(12)	¥828,700
3月	422(19)	¥1,235,200	424(24)	¥930,200	413(16)	¥867,200
小計	2486(81)	¥6,640,300	2688(81)	¥5,908,800	2327(51)	¥4,847,200
合計	4828(186)	¥13,354,000	5437(178)	¥12,913,760	4687(126)	¥9,960,000

4-2. みどりの風クリニック

1. 活動実績

1) みどりの風クリニック診療時間

前年度に引き続き下記の通り診療業務を実施している。

(1) 整形外科

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	
13:30～16:00	×	×	×	予約制 (再診)	×	×
16:30～19:30	●	●	×	●	●	×

(2) 内科・漢方内科・心療内科

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	×
13:30～16:00	●	●	●	●	●	×
16:30～19:30	×	×	×	×	×	×

2) 森ノ宮医療学園の学生臨床実習実施状況

下記の通り、各学生臨床実習を実施した。

(1) 森ノ宮医療大学

・鍼灸学科 学外見学実習

平成28年9月29日～平成28年12月1日

学生15名受入

(2) 森ノ宮医療学園専門学校

・柔道整復学科 臨床実習

平成28年4月1日～平成29年3月31日まで

対象：柔道整復学科2年昼間部・夜間部、3年昼間部・夜間部の全学生
学生計166名受入

リハビリテーション科での臨床実習のみならず、他の医療職との連携を学ぶため、整形外科の診察見学、放射線科の見学、医事課の見学も行った。

下記の要項の通り、研修生を受け入れた。

(1) 卒後臨床研修の趣旨

卒後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格と医療の果たすべき役割を認識して取り扱う外傷疾患に対して適切に対応し、後療法を行なえるよう臨床の現場で基礎から実践的な柔道整復学を学び柔道整復師としての必要な知識や能力を身に付けることを目的としている。

(2) 対象

柔道整復師

(3) 人数

4名

(4) 研修施設

森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック

(5) 主な特徴

- ・多様性と柔軟性を持った卒後研修制度
- ・医療機関との連携の必要性を学ぶ
- ・柔道整復師本来の業務である骨折、脱臼の整復を学ぶなど

(6) 研修内容

- ・リハビリ室での見学
 - ・運動器リハビリテーション、骨折、脱臼、捻挫、靭帯損傷等外傷のギプス固定、シーネ固定、テーピング固定、徒手整復を主とした研修。
- (7) 研修期間
週決められた日数を3ヵ月、6ヵ月、1年間のコースを選択して行う。
- (8) 卒後臨床研修コース概要
見学研修を3ヶ月とし、本校柔道整復科卒業生で6ヶ月コース、1年コースを選択したものは3ヶ月の研修後実際に患者さんを治療する臨床研修に移行していく。
外部コース（他校卒業生）は見学実習のみを予定している。
- 3) 外部実習生の研修受入状況
下記の通り、各部門において外部実習生の研修を行った。
- (1) 整形部門
前年度に引き続き AT 長島治療院より、施術スタッフ 12 名の技能及び資質向上を目的として、毎週月曜日の夜診帯に 2 名ずつ交代で 1 年間の見学研修を受け入れている。
- 4) 健康診断等の実施状況
下記の通り、当クリニックにおいて森ノ宮医療学園専門学校の実施基準による学生健診、また、厚生労働省で定められている教職員の健康診断等を法人からの依頼により実施した。
- (1) 学生健診の受入
・実施日時：平成 28 年 4 月 13 日
・実施人数：専門学校学生 517 名
- (2) 教職員健診の受入
・実施日時：平成 28 年 10 月 5 日～11 月 11 日（延長 11 月 18 日まで）
・実施人数：大学 80 名、専門学校 40 名、診療所 17 名
- (3) インフルエンザ予防接種実施
・実施期間：平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日まで
・実施人数：151 名（一般患者、学生及び教職員）
- 5) トレーナー活動との連携強化
現在、当クリニックでは、宮崎医師と親交のある今福トレーナー、所トレーナーを通じ、下記、当該チームのメディカルチェックを含め医療面のサポート体制の保持に努めている。
- (1) 社会人野球 日本新薬(株) 硬式野球部
(2) 高校野球 近畿大学附属高校 硬式野球部
その他、専門学校教員の関与する各種スポーツ部門のチームからの依頼に対しては、臨機に対処するように努めている。
尚、参考ではあるが、当クリニックリハビリ科員の理学療法士池上は、滝川第二高校硬式野球部コーチに就任している。
- 6) 医療スタッフの学術活動状況
- (1) 学術発表
・第 25 回 日本柔道整復接骨医学会学術大会（平成 28 年 11 月 19～20 日）
発表者：柔道整復師 大森・村上
- (2) 学術参加状況
・姿勢・動作コントロールセミナー（平成 28 年 5 月 3 日）
・エポック肩関節周囲炎に対する運動療法の考え方（平成 28 年 5 月 29 日）
・第 25 回 整形外科リハビリテーション学会（平成 28 年 9 月 18～19 日）
・第 43 回 日本肩関節学会学術大会（平成 28 年 10 月 21～22 日）
・第 6 回 関西肩コラボレーションミーティング（平成 28 年 10 月 29 日）

- ・第6回 大阪臨床整形外科医会療法士会研修会(平成28年11月13日)
- ・第25回 日本柔道整復接骨医学会学術大会(平成28年11月19～20日)
- ・team Lab Body PT/OT セミナー(平成28年12月11日)
- ・第22回 スポーツ傷害フォーラム(平成28年12月26日)
- ・2017年一般社団法人アスリートケア研修会(平成29年2月12日)
- ・第2回 アスレティックリハビリテーションセミナー(平成29年3月4日)
- ・大阪運動器リハビリテーション研究会セミナー(平成29年3月5日)
- ・第81回 日本循環器学会学術大会(平成29年3月17～19日)

(3) 加入団体

- ・日本医師会
- ・大阪府医師会
- ・東成医師会
- ・日本診療放射線技師会
- ・大阪府放射線技師会
- ・日本東洋医学会
- ・全国病院理学療法協会
- ・日本柔道整復接骨医学会
- ・日本理学療法協会
- ・日本消化器関連学会
- ・日本心身医学会
- ・日本内科医学会
- ・日本看護協会
- ・大阪府看護協会

2. 保険診療状況

1) 患者動向実績

患者動向は、医師変更のあった内科部門の影響が大きく、前年度と対照的に患者数・初診・再診ともに前年度比減少となった。

平成28年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:円

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	初診	再診	患者数	初診	再診	患者数	初診	再診
	237	30,485	3,234	27,251	4,904	709	4,195	25,581	2,525	23,056
計	238	33,306	3,831	29,475	7,854	1,096	6,758	25,452	2,735	22,717
	▲1	▲2,821	▲597	▲2,224	▲2,950	▲387	▲2,563	129	▲210	339

2) 保険診療実績

保険診療実績についても、内科部門が患者は約3,000名の減少(前年度比62%)、請求金額は約1,500万円の減少(前年度比63%)となった為、全体減少の大きな要因となった。

平成28年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:円

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
	237	30,485	137,152,390	4,499	4,904	26,146,660	5,332	25,581	111,005,730	4,339
計	238	33,306	156,303,350	4,693	7,854	41,368,440	5,267	25,452	114,934,910	4,516
	▲1	▲2,821	▲19,150,960	▲194	▲2,950	▲15,221,780	65	129	▲3,929,180	▲176

※平均単価は端数を四捨五入

5. 森ノ宮医療学園出版部

(1) 概況報告

平成 28 年の実績としては、看板雑誌である『鍼灸 OSAKA』4 号を無事発行することができた。

結果として、執筆者等の諸事情から年度内発行予定の書籍はおおむね次年度への継続案件となった。

売上では昨年より下降し 21,002,584 円、予算 (27,945,880 円) 比で 75.2% 達成という結果となった。これには、予想された新刊本の未発行と、在校生数減少による学内売上減および教科書販売手数料減、書籍全般の売上微減の累積によるものと推測される。

また課題であった未収金の削減の方策としてクレジットカード決済システムを導入した。

販売促進への取り組みとしては、校友会との連携により学内販売および校友会会員への『鍼灸 OSAKA』バックナンバー割引セールを実施し、好反響を得た。今後も同キャンペーンを実施するとともに告知に注力する。

出版部事業として、東洋医学等の発展に資するための企画として、イベントの実施を挙げているが、本年度は、2008 年イギリスで登録されたチャリティ団体の「モクサフリカ」から主宰者の来日に合わせ、本学にて講演会を主催すると、業界のみならず一般の方へも灸の効果と世界的な取り組みをアピールした。また、WFAS (世界鍼灸学会連合会) つくば大会では、はりきゅうミュージアム所蔵資料パネルをメイン会場に設置するなど本学園ミュージアムはもとより東洋医学の PR に一役買うことができた。

次年度については、継続企画の遂行を第一に、『鍼灸 OSAKA』の新たな展開を必須項目として取り組むとともに、東洋医学の普及発展＝本学園の発展という思いのもと、医療界をボーダレスとする出版ならではの企画を提案していく所存である。また広報から引き継ぐことになったフリーペーパー「ここ+から」の編集制作や、8 月に予定している校友会との共催イベント「鍼灸フェスタ」の成功に向け尽力する。

2. 制作・出版物報告

- 1) 「鍼灸 OSAKA」の発行 (121~124 号/121~123 号: 1800 部 124 号: 1600 部 発行)

No	発行日	特 集
第 121 号	2016/6/10 発行	触診力をつける
第 122 号	2016/9/28 発行	プライマリ・ケアと鍼灸
第 123 号	2016/12/13 発行	産前産後の鍼灸治療
第 124 号	2017/03/12 発行	鍼灸とボランティア・NPO

- 2) 28 年度発行の単行本等編集・制作

* 「校友会報」(年 1 回 No. 16) ・グリーティングカード 1 点 ・DVD 1 点

- 3) 29 年度継続制作予定の出版物

* 『中国針灸学術史大綱』(黄龍祥著 日本語訳): 第 1 巻出稿および第 2 巻校閲進行中
* 『はりきゅう Q&A』(森ノ宮医療学園出版部編): 進行中
* 『モクサフリカ 小さな灸で世界を変える』: 進行中
* 『漢文で読む霊枢』改訂増補版

3. 平成 28 年度事業計画進捗状況

	28 年度計画制作物・事業	実績・進捗状況	
季刊誌	鍼灸 OSAKA121	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA122	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA123	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA124	発刊	了
書籍販売	教科書・参考書販売	予定通り完了	了
書籍販売	図書室図書販売	完了	了
単行本	中国針灸学術史大綱第 1 巻	29 年度に校了予定	継続
単行本	はりきゅう Q&A	29 年度に出版予定	継続
単行本	経絡経穴取穴 Study	出版予定を凍結	—
デジタル	鍼灸 OSAKA 絶版号	29 年度発売実施	了
デジタル	鍼灸臨床ポケットガイド アプリ	29 年度出版進行	継続
制作受託	校友会報	制作済み	了
	DVD (下條喜信先生)	28 年度発行	了

4. 売上報告

● 28 年度月別売上 (単位:円)

月	売上額 (円)	21,002,584			
4 月	1,223,589	8 月	561,219	12 月	2,409,307
5 月	2,158,433	9 月	2,377,589	1 月	438,978
6 月	4,267,878	10 月	1,706,549	2 月	1,463,254
7 月	78,4681	11 月	1,194,025	3 月	2,414,882

● 商品別売上 (単位:円)

商品分類	比率 (%)	売上高 (28 年度)	27 年度比 (%)	売上高 (27 年度)
単行本	25.8	5,428,931	25.4	6,204,000
鍼灸 OSAKA	39.0	8,203,814	40.3	9,869,430
手数料 (教科書)	14.0	2,935,636	14.3	3,489,039
図書室図書	0	0	2.4	579,788
教科書	2.2	465,888	4.3	1,059,100
制作費・編集費	10.1	2,133,780	9.0	2,194,000
抜刷	1.0	207,634	0.7	187,340
広告料	4.4	922,560	3.2	781,440
送料	3.2	665,741	0.3	77,925
他社出版物	0.1	21,600	0.1	21,600
その他	0.2	17,000		

	100	21,002,584	100	24,463,662
--	-----	------------	-----	------------

●鍼灸 OSAKA 売上

バックナンバー (BN)	28年度 売上件数	金額 (円)	27年度 売上件数	金額 (円)
鍼灸 O S A K A	4801	8,203,814	5610	9,869,430
BNセット124号まで	0		0	0
計	4801	8,203,814	5610	9,869,430
前受金 (売上振替未分)	416	768,600	453	830,119
定期購読数	28年度	27年度		
新規定期購読	10	16		
学生定期購読	502	572		
定期購読(継続)	236	260		
盲学校等学校定期購読	31	25		
計	768	873		

●取引先別売上げ

顧客	売上	比率
書店	4,148,948	19.8
学生	166,200	0.8
森ノ宮医療学園関係	4,969,077	23.7
取次	3,755,904	18.0
個人	3,278,838	15.6
校友会	2,695,134	12.9
業者	591,663	2.8
ネットショップ	1,022,240	4.9
他校(盲学校含む)	110,100	0
その他	264,480	1.5
計	21,002,584	100

●単行本売上

刊	タイトル	売上数	売上額(円)	売上比率 (%)
既刊	臓腑経絡学	417	950,118	17.5
既刊	ツボ暗記カード	352	895,612	16.5
既刊	ポケット鍼灸臨床ガイド	420	726,867	13.4
既刊	ツボ暗記カードアプリ	197	714,600	13.1
既刊	柔道整復理論サブノート	231	592,597	10.9
既刊	このツボが効く-先人に学ぶ75名穴	132	276,351	5.1
新刊	胃の気の脈診	53	235,930	4.3
既刊	インテリジェントボディCD	87	155,509	2.9

既刊	漢文で読む靈枢	53	147,033	2.7
既刊	もっと身近にアロマセラピー	127	139,606	2.6
既刊	健康で知的なからだをつくる 51 のレッスン	74	136,093	2.5
既刊	ミュージアム図録 I II	48	102,419	1.9
既刊	治療家の経営術	48	76,165	1.4
既刊	生きているとは 講演集	164	71,863	1.3
既刊	はりきゅうロード	36	57,522	1.1

*売上額 5 万以上を記載 *比率は単行本売上に対するもの

5. 営業活動

● 主な展示販売

(単位:円)

展示会名	場所	販売期間	出張者および主担当	売上	出展料
第 65 回全日本鍼灸学会	札幌	平成 28 年 6 月 10 日 ～12 日	織田	78,720	46,440
第 67 回日本東洋医学会	高松	平成 28 年 6 月 3 日 ～5 日	廣長	51,980	20,000
第 44 回日本刺絡学会	東京	平成 28 年 10 月 28 日	廣長	45,120	0
第 44 回日本伝統鍼灸・WFAS 共催	つくば	平成 28 年 10 月 24・25 日	織田 / 廣長	47,000	54,000
第 7 回大阪漢方鍼灸医学セミナー	大阪	平成 28 年 6 月 26 日	廣長	35,400	0
第 10 回小児はり学会	姫路	平成 28 年 9 月 25 日	織田	11,580	0
その他 学外	—		織田・廣長	21,300	0
学内関係			北村・廣長	186,170	0
計				477,270	120,440

● DM によるキャンペーン

校友会会員対象の『鍼灸 OSAKA』バックナンバー割引価格販売キャンペーンを期間限定で 2 回 (12 月・3 月) 行った。また専門学校内にて在校生および教職員対象のバックナンバー・単行本割引販売セールを 2 日間の日程で実施した。

● 店訪問・営業

学会出展時に開催地を中心として、時間的余裕に応じてその近郊書店を訪問し、出版部発行書籍の PR を行っている。また、新刊発行予定についても、取次書店担当者はもちろん、各小売書店の医学書担当者と対面して事前 PR することで、発行時に委託等注文がスムーズ得られる。

〔取扱書店一覧〕

WEB 書店

Amazon
 Fujisan (鍼灸 OSAKA のみ)
 紀伊国屋 BookWEB セブンネットショッピング ヨドバシカメラ
 メテオメディカルブックセンター YAHOO! ブックス など

店舗

北海道	MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店 蔦屋書店函館店 丸善札幌南一条店 ジュンク堂書店旭川店	岐阜県	喜久屋書店・大垣店
岩手県	MORIOKATUTAYA	三重県	ワニコ書店
宮城県	アイエ医書センター 丸善・仙台アエル店	京都府	紀伊國屋書店・京都御池店 ジュンク堂書店・京都店 ジュンク堂書店・京都 BAL 店 アバンティブックセンター
福島県	八重洲ブックセンター・郡山店	大阪府	紀伊國屋書店・梅田本店 紀伊國屋書店・本町店 ジュンク堂書店・大阪本店 ジュンク堂書店・難波店
栃木県	大学書房メビウス		関西医書
群馬県	喜久屋書店・太田店		丸善・なんば OCAT 店
千葉県	三省堂書店・そごう千葉店 丸善・津田沼店 宮脇書店・印西牧の原店		神陵文庫・大阪支店 田村書店・千里中央店
東京都	三省堂書店・神保町本店 文進堂 東方書店 亜東書店 いざわ書林 療原書店 新樹社書林 丸善・本店 八重洲ブックセンター・本店	兵庫県	神陵文庫・本社 ジュンク堂書店・三宮店 ジュンク堂書店・三宮駅前店 ジュンク堂書店・姫路駅前店
	旭屋書店・池袋店	島根県	島根井上書店
	紀伊國屋書店・本店 紀伊國屋書店・新宿南口店 ジュンク堂書店・池袋店 たにぐち書店 オリオン書房・ノルテ店	岡山県	泰山堂書店 泰山堂書店・鹿田店 丸善・シンフォニービル店 喜久屋書店・倉敷店
神奈川県	有隣堂・医学書センター 有隣堂・川崎 BE 店 あおい書店横浜店 ACADEMIA・港北店 ACADEMIA・ちはら台店	広島県	井上書店 井上広文館 フタバ図書・TERA 医書
長野県	明倫堂書店	徳島県	久米書店 久米書店・医大前店
新潟県	考古堂書店	香川県	宮脇書店・本店 宮脇書店カルチャースペース 宮脇書店・南本店
富山県	文苑堂書店・福田本店	愛媛県	丸三書店
石川県	前田書店	福岡県	丸善・福岡ビル店 紀伊國屋書店・福岡本店 紀伊國屋書店・福岡天神店 ジュンク堂書店・福岡店 喜久屋書店・小倉店
静岡県	丸善・新静岡店 ガリバー	長崎県	紀伊國屋書店・長崎店
愛知県	大竹書店 丸善・名古屋栄店 三省堂書店・高島屋店	大分県	ジュンク堂書店・大分店
		鹿児島県	ジュンク堂書店・鹿児島店
		沖縄県	考文堂
		韓国	釜山 栄光図書

Ⅲ. 財務の概要

- ・ 大学新学科関連の先行支出と専門学校の募集低迷により経常収支差額は12,738,588円の赤字となったが、森ノ宮医療学園校友会の施設寄付金等の特別収入により基本金繰入前当年度収支差額は32,215,826円の黒字を確保した。
- ・ 日本私立学校振興・共済事業団の基準に基づく経営状態判定結果は、平成27年度のA1（正常状態の最高位）からA3（正常状態の最下位）に下降した。今後、大学次期新学科等の投資が予定されていることから、一時的にB0（イエローゾーンの予備的段階）になることが想定されるが数年で正常状態に復帰できる見通しである。

表1：平成28年度決算概要

(単位：円)

No.		平成28年度※	平成27年度※	平成26年度	平成25年度	説明
1	帰属収入	2,965,368,070	2,758,027,401	2,818,708,306	2,842,770,824	消費収支(単年度)の収入合計
2	消費支出	2,933,152,244	2,481,058,394	2,394,096,562	2,254,081,168	消費収支(単年度)の支出合計
3	帰属収支差額	32,215,826	276,969,007	424,611,744	588,689,656	1-2
4	基本金組入	△ 614,168,081	△ 2,878,085,848	△ 13,960,200	△ 92,940,851	将来存続に向けての最低限の設備など備え
5	差引収入超過	△ 581,952,255	△ 2,601,116,841	410,651,544	495,748,805	3+4(△支出超過額)
6	前年度繰越収入超過額	△ 1,044,193,385	1,556,923,456	1,142,597,102	616,848,297	差引収入超過額の累計額
7	基本金取崩	-	-	3,674,810	30,000,000	
8	翌年度繰越収入超過額	△ 1,626,145,640	△ 1,044,193,385	1,556,923,456	1,142,597,102	5+6+7 (△は支出超過額)

※平成28,27年度の数値は事業活動収支計算書を旧・消費収支書の形式に置き換えたもの

※事業活動収支計算書(概要)

No.		平成28年度	平成27年度	説明
1	教育事業活動収入	2,902,086,895	2,739,177,618	-
2	教育事業活動支出	2,915,772,498	2,462,650,960	-
3	教育活動収支差額	△ 13,685,603	276,526,658	1-2
4	教育活動外収入	3,149,521	2,113,923	-
5	教育活動外支出	2,202,506	0	-
6	経常収支差額	△ 12,738,588	278,640,581	3+4-5
7	特別収支差額(集計)	44,954,414	△ 1,671,574	-
8	組入前当年度収支差額	32,215,826	276,969,007	6+7
9	基本金組入額	△ 614,168,081	△ 2,878,085,848	-
10	当年度収支差額	△ 581,952,255	△ 2,601,116,841	8+9
11	前年度繰越収入差額	△ 1,044,193,385	1,556,923,456	-
12	翌年度繰越収支差額	△ 1,626,145,640	△ 1,044,193,385	10+11

表 2 : 正味資産の推移

(単位: 円)

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
正味資産 (総資産-負債)	12,343,415,973 (内流動資産総額 2,723,025,512)、	12,311,200,147	12,034,231,140	11,609,419,426	11,020,929,740
資産増加額	32,215,826	276,969,007	424,811,714	588,489,686	454,786,890

表 3 : 主な財務比率

項目	平成 28 年度※	平成 27 年度※	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	説明
帰属収支差額比率	1.1%※	10.0%※	15.1%	20.7%	16.6%	帰属収入—消費支出 / 帰属収入
人件費比率	55.5%※	52.4%※	50.5%	47.2%	52.9%	人 件 費 / 帰属収入
教育研究経費比率	28.7%※	23.7%※	24.6%	23.3%	22.0%	教 育 経 費 / 帰属収入
管理経費比率	14.1%※	13.0%※	9.5%	8.5%	8.3%	管 理 経 費 / 帰属収入
経常収支差額比率	-0.4%	10.2%	-	-	-	経 常 収 支 差 額 / 経常収入
人件費比率	56.6%	52.8%	-	-	-	人 件 費 / 経常収入
教育研究経費比率	29.4%	23.9%	-	-	-	教 育 経 費 / 経常収入
管理経費比率	14.4%	13.1%	-	-	-	管 理 経 費 / 経常収入

※平成 27・28 年度 (参考値) は経年比較のため帰属収支差額比率・人件費比率・教育経費比率・管理経費比率を記載しています。

(参考) 日本私立学校振興・共済事業団基準にもとづく経営状態判定結果

項目	YES/NO	備考
教育活動資金収支差額が、3年のうち2年以上赤字である。	NO	
外部負債を約定年数または10年以上に返済できない	NO	
修正前受金保有率100%未満である	NO	220%
経常収支差額が3年うち2年以上赤字である。	NO	
黒字幅が10%未満か?	YES	経常収支比率-0.4%
積立率が100%未満か?	NO	98%
判定結果	A3	黒字幅主縮小のため平成27年度のA1から下降